



村上市からのお知らせ
安全な暮らし、ゆとりのある生活のため
地域の除排雪作業を支援します

村上市では、近年、除排雪作業中の事故による人的被害が発生しています。作業をするときは、次のポイントに気をつけて安全対策を万全にしようとして実施しましょう。また、地域の除排雪にかかる負担を軽減するため、以下の支援を行っていますのでお知らせします。

安全な除雪作業のポイント

- 作業は2人以上で行い、やむを得ず1人の場合でも家族や隣近所にひと声かけましょう。
- 作業は重労働です。無理をせず自分の体調を見て休憩しながら行いましょう。
- 落雪や転落に気をつけて、安全な動きやすい服装で行いましょう。
- 雪下ろしは足元に注意し、転落事故防止のため命綱や安全帯を装備しましょう。
- 小型除雪機の雪詰まり除去や点検はエンジンを切ってから行いましょう。

令和6年2月27日

令和5年度 雪国の安全・安心な地域づくりを考える活動報告会

新潟県村上市企画戦略課 主査 渡辺真吾

◎ 人口・位置

高齡化率40%

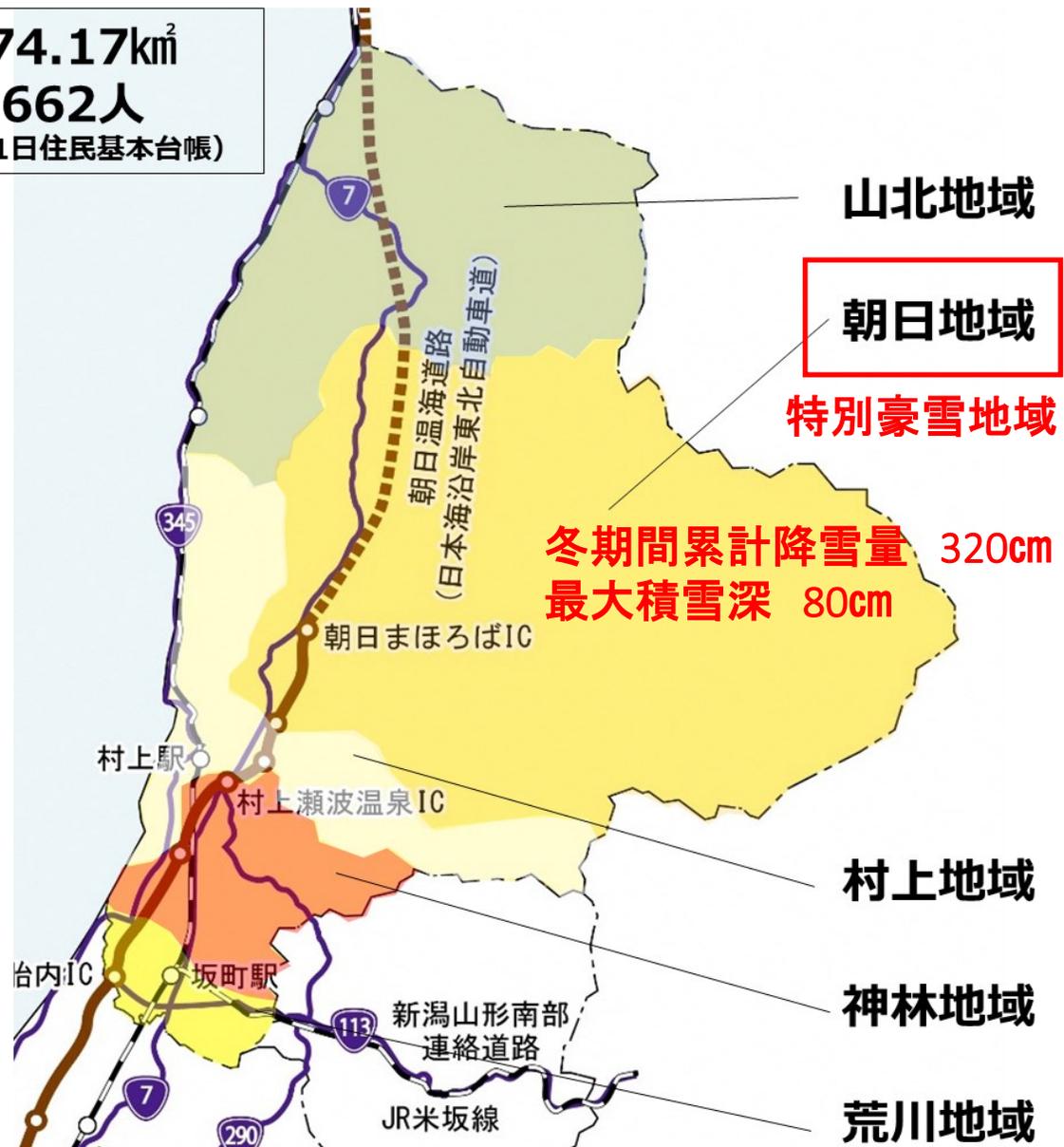


面積 1174.17km²
 人口 54,662人
 (令和6年2月1日住民基本台帳)



▼村上市の人口(令和6年2月1日住民基本台帳) (単位:人)

	人口	年少人口	生産年齢人口	老齡人口	高齡化率	世帯数	行政区数
村上	24,603	2,405	12,948	9,250	37.6%	10,652	112
荒川	9,359	893	4,956	3,510	37.5%	3,684	31
神林	7,818	730	3,890	3,198	40.9%	2,848	40
朝日	8,101	592	3,858	3,651	45.1%	2,980	46
山北	4,781	276	1,972	2,533	53.0%	2,056	46
計	54,662	4,896	27,624	22,142	40.5%	22,220	275

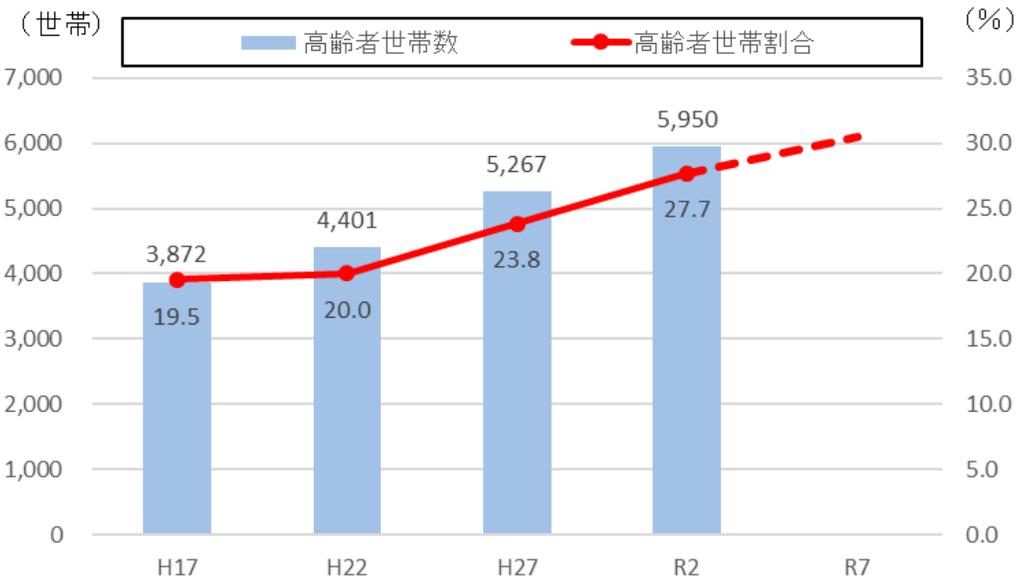
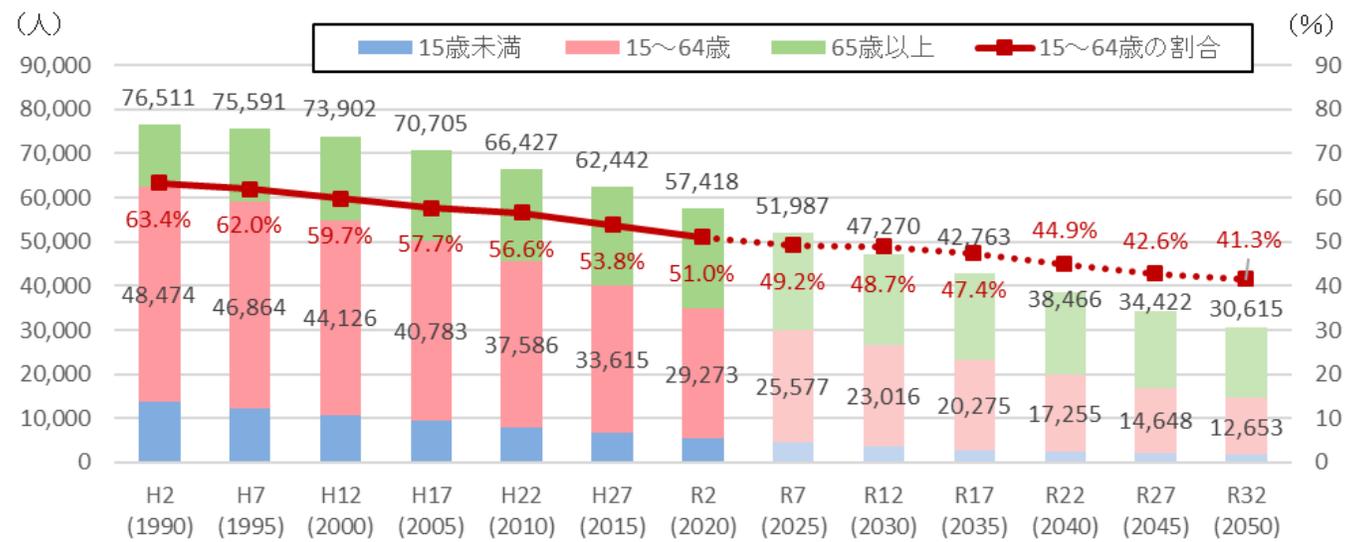


◎ 人口推移

**30年で
約25%の
人口が減少**

**減少
傾向**

▼ 年齢3区分別人口と生産年齢人口割合の推移・推計
(資料: 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所)



▲ 高齢者世帯数の推移 (世帯全員が65歳以上)
(資料: 国勢調査)

**増加
傾向**

◎ 村上市の旬



町屋通り



夏) 山焼き



100種類を超える鮭料理



越後村上鮭塩引き街道



赤かぶ



越後本ズワイ



お幕場大池



村上市元旦マラソン大会

◎ 取組・課題

1 これまでの雪処理対策の主な取組

- ① 除排雪自主活動補助事業
- ② 小型除雪機貸出事業
- ③ 高齢者等除排雪援助事業
- ④ 雪下ろし命綱固定アンカー設置補助金

2 雪処理対策の課題

- ① 除排雪作業中の死傷事故の発生
- ② 人口減少や少子高齢化による除排雪活動の人手不足
- ③ 自治会活動の維持が困難
- ④ 除排雪業者の減少や従業員の高齢化
- ⑤ 民地の除排雪に要する行政コストの増大



◎ 地域安全克雪方針

1 村上市地域安全克雪方針



第1章 はじめに

- 1 地域安全克雪方針策定の背景と目的 ⇒ **背景) 除排雪作業の少人数化、高齢化**
目的) 除排雪体制の構築、死傷事故防止

第2章 現状と将来見込み

- 1 除排雪作業に関する死傷者数
- 2 人口・世帯数
- 3 除排雪の体制
- 4 除排雪業者の状況
- 5 民地の除排雪に要する行政コスト

第3章 現状と将来見込に基づく課題

- 死傷者事故が発生 ⇒ **事故防止のルール設定、安全対策**
高齢化、人手不足 ⇒ **人材育成、デジタル技術導入**
取組が困難、消極的な自治会 ⇒ **隣接する自治会等との連携**
除排雪業者の減少 ⇒ **従事者の確保**
民地の除排雪に要する行政コストの増大 ⇒ **民地は住民主体**

第4章 住民参加による課題や取組等の検討

- 1 ワークショップの開催 ⇒ **3回（20団体参加）【令和4年度】**
- 2 講習会の開催 ⇒ **6回（克雪活動、小型除雪機、アンカー設置）【令和4,5年度】**
- 3 克雪モデル団体の活動事例 ⇒ **1自治体【令和4年度】**

第5章 地域の将来構想

- ・将来の姿を実現するためのステップ ⇒ **3年後、5年後、10年後**
- ・将来の姿 ⇒ **“お互い様”の安全除雪 ずっと笑顔で暮らせる地域**
- ・目標と目標指標の設定 ⇒ **死傷事故ゼロ、地域の除排雪組織数、アンカー設置数**

第6章 地域ルール・各主体の取組事項

- ・地域のルール ⇒ **自分のこと、地域のこと**
- ・各主体の主な取組事項 ⇒ **市民、自治会、事業者、行政**



◎ 死傷事故の防止に向けた各種取組（安全克雪事業）

1 克雪コミュニティモデル事業

○地域の共助による除排雪体制づくりを推進する。

- ・ワークショップの開催 3回（20団体参加） 【令和4年度】
- ・克雪活動講習会、小型除雪機の操作講習会の開催 各2回 【令和4,5年度】



ワークショップ



克雪活動講習会



アンカー設置講習会

2 安全対策普及啓発事業

○除排雪時の安全対策や補助制度に関するチラシを作成・配布し、地域住民への安全な除排雪作業の浸透を図る。

○屋根の雪下ろしにおける転落事故防止に有効とされるアンカー設置について、市内建築業者等の理解促進と技術習得を図るため講習を試行的に行う。

- ・啓発チラシの作成配布 2回 【令和4,5年度】
- ・命綱アンカー設置講習会 2回 【令和4,5年度】

◎ ワークショップの開催

目的

除排雪に関する地域の課題の共有や自立的で安全な地域の実現に向けた将来あるべき姿について議論・検討するため、地域住民・事業者等が参加し開催

開催概要

	開催月	主な内容
第1回	令和4年10月	①現状・課題の共有、課題を解決するための目標
第2回	令和4年11月	①目標の達成に向けた取組 ②取組の達成により目指す姿
第3回	令和5年1月	①これまでの検討のふりかえり ②将来あるべき姿

参加者

自治会12、福祉4、地域連携2、除雪業者2 計20団体

意見交換の
内容は各項目
へ反映



ワークショップ

3. 地域安全克雪方針の策定に向けた具体的な調査手法

◎ ワークショップニュース

No. 1

■作成
村上市 企画戦略課企画政策室（担当：山田）
TEL：0254-53-2111（内線3810・3811）
FAX：0254-53-3840

村上市地域安全克雪方針策定 ワークショップニュース

第1回「除排雪に関する地区の課題を抽出し、課題を解決するための目標を設定する」

■ワークショップの概要

目的
除排雪に関する地域の課題の共有や、将来のあるべき姿について議論や検討を行い、その内容を各地域での取組や課題解決に役立てるとともに、意見を地域安全克雪方針に反映する。

第1回開催概要

日時	令和4年10月26日（水） 18:30～20:00
場所	村上市情報センター 会議室A・B
参加人数	18人（意見交換は3グループに分かれて実施）
説明	①村上市の概況 ②除排雪に関する現状と課題 ③各市町村の取組事例
意見交換	①地域の除排雪に関する課題 ②課題を解決するための目標

スケジュール

回	開催日	検討内容
第1回	10月26日（水）	・除排雪に関する地区の課題を抽出し、将来の目標を設定する
第2回	11月29日（火）	・目標の達成に向けて必要な地区のルールや取組を検討する
第3回	1月22日（日）	・降雪期を迎えてこれまでの検討内容を振り返る

次回
日時：11月29日（火）18:30～
会場：村上市情報センター 会議室A・B
テーマ：『目標の達成に向けて、必要な地区のルールや取組を検討する』

今回は、住民・事業者等の様々な立場から、自分たちでできることを考えましょう

■意見交換のまとめ

地域の除排雪に関する課題

① 高齢化

- 高齢者一人で雪下ろしをしていて危険
- 一人暮らしの高齢者が多く、除雪作業に困っている
- 高齢者にとって除雪車が通ったあとにの自宅前の雪の除去が大変
- 高齢者宅の玄関～道路・ゴミステーション等の除雪が必要 等

② 除排雪の場所

- 除雪後の道路が狭く、車や歩行者の通行が心配
- 除雪車による除雪の時間が遅く、通勤・通学に間に合わない
- 介護施設へ行くための除雪が必要
- ゴミステーション・消火栓周りの除雪が必要
- 排雪場所の確保が必要
- 空き家が増えたとその周辺の除雪等に困る

③ 人手不足

- 除雪作業の協力が得られない
- 雪下ろし業者や除雪オペレーターが減少 等

④ 支援体制・方法

- 身近なところに支援体制がない
- 地区内でどのような体制をつくれればよいかわからない
- 防災組織の意識づけ、予算付けが必要
- ボランティアは無料ではなく有償のほうがお互いによりやすい

⑤ 機械除雪

- 除雪機械の操作が不安
- 除雪機械を使うための講習会の開催が必要（けが予防）
- 除雪車が通った後の雪の処理に苦労している
- タイヤショベルによる事故がある

⑥ 費用の負担

- 雪下ろし業者に頼むと費用がかかる
- 市からの補助は除雪機の燃料代のみで排雪トラックの燃料代は出ない

課題を解決するための目標

① 人材の育成

- 高校生や地域の若者による除雪
- 子どものころからの意識づけ
- 機械操作のための講習会の開催 等

② 地域で除排雪をする仕組みづくり

- 除雪オペレーター等の作業支援者への報酬等の仕組みづくり
- 有償ボランティアの活用
- 地域の課題や良かった点を共有する場の創出 等

③ ルールの設定によるスムーズな除排雪の実施

- 通学路・ゴミ捨て場など優先的に除雪をする場所の設定
- 排雪場所や方法に関するルールの設定 等

④ 地域の雰囲気づくり

- “地域で助け合う”という意識の醸成
- 近所で日頃から声掛けができるような関係性の構築 等

全体への説明

Aグループ

Bグループ

Cグループ

■各グループの意見

① 地域の除排雪に関する課題

	Aグループ	Bグループ	Cグループ
安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ●人口が減り人数で協力して除雪ができないため、もしもの時に発見されにくい ●空き家が多く、自宅付近の道路除雪ができない ●1人暮らしの高齢者宅の除雪が必要 ●空き家が倒壊した時の雪下ろしが大変になる ●雪が多いときは高齢者が一人で雪下ろしをしており危険な時がある ●高齢者の玄関から一般道への道路の確保、ゴミステーションまでの道路の確保が必要 ●消雪パイプが数年前から故障して出ない ●排雪する場所がない ●集積内道路脇の水路に排雪しているが水路がつかまる ●空地等への仮除雪場所の確保が大切 ●市内の一般道は消雪パイプがあるとこないとこでの差が大きい ●集積内小型除雪機で除雪する。2名で実施し、1名はスコップで危険箇所を確認する ●除雪車による除雪後の雪の処理に苦労している ●消火栓周りの除雪、見回りは重要 	<ul style="list-style-type: none"> ●集積内の道路が狭いので除雪後さらに狭くなり子供たちの通学路の安全が確保できない ●通学路の除雪が難しい ●小さな事故だとあまりそのことについて話し合えないが、積み重なると大きな事故につながる可能性がある ●タイヤショベルの後方に対する事故がある。大きな除雪車だと同乗者がいるため事故はない ●トラクターで集積の防火水栓等の除雪時に民地の除雪を行うが事故はない ●介護施設へ行くための除雪 	<ul style="list-style-type: none"> ●雪下ろしする時に仲間がいいたら早く下ろすことができる ●機械（除雪機）を使う上でのケガ予防（講習会の開催が必要） ●除雪機械の操作の仕方が不安 ●機械を操作したときの事故や怪我等が心配。どのような保険があるのか ●除雪により道路が狭くなり車や子供の通行が心配 ●除雪車が来るまでの通学路の安全確保 ●除雪車が通った後の雪の処理 ●排雪する場所の確保。近くに排雪場が無い
除排雪に関する支援・体制	<ul style="list-style-type: none"> ●雪が溶けた後の歩道の人が不在 ●除雪機を一人で動かすのが難しい ●雪下ろしをする人がおらず、いたとしても高齢者が多い ●除雪を手伝う人も高齢者であり、作業の限界がある ●1人暮らしの高齢者が多く除雪に困っている ●若い人よりも高齢の人が、より除雪に積極的 ●市の雪捨て場へ排雪するトラック等の運搬手段が不足している（区で1台しかない） ●若い人達の協力、ボランティア不足 ●自主防災組織の活用 ●無料のボランティアではなく、有償にした方がお互いによりやすい面がある 	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者宅への雪下ろし（人手がない） ●緊急の場合、自宅だけで他に手が回らない ●除雪作業の協力が得られない ●通学路の除雪が間に合わない ●ゴミステーションの道路除雪 ●大型除雪機時間短縮 ●除雪時間が遅くなる時がある（通勤・通学に間に合わない） ●作業の効率化 ●除雪機のオペレーターが不足（平日） ●大型除雪機での排雪場所 ●雪が溶けた後がない ●家が密集しているため排雪の場所がない ●排雪をする場所がなくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ●自主防災会のメンバーであっても、除排雪に対する取組意識が低い ●組織の意識の考え方、予算づけが課題 ●予算づけが必要。飲み物や茶菓子などを用意する程度でもよい ●ボランティアでやるのは限界がある（長つづきしない） ●地域住民の高齢化 ●除雪機の高齢化 ●15年後には高齢化により除雪する人がいなくなる ●1人暮らしの高齢者が増えて、自宅の除雪が出来なくなってきた ●雪下ろし業者の減少 ●自宅の除雪作業が手いっばい、他の家に手が回らない ●身近な所に支援体制がない ●消雪パイプはあるが、雪は消えない ●集積内でどのような体制をつくれればよいかわからない。日毎に担当を決めるのがよいか、順番を決めればよいか ●農作業用のトラクターを使って雪処理をしている（朝日地区）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●雪下ろし業者に頼むと費用がかかる ●補助は除雪機の燃料代だけで、排雪のトラックの燃料代は出ない ●通常は市道のみ除雪とし、自宅内の除雪は各自でもらいたい ●小型除雪機を使用していると自宅の除雪を頼まれることもあるが、どこまでやっていいかわからない（ルールの明確化） 	<ul style="list-style-type: none"> ●消雪パイプ地下水問題 ●空き家対策 	

② 課題を解決するための目標

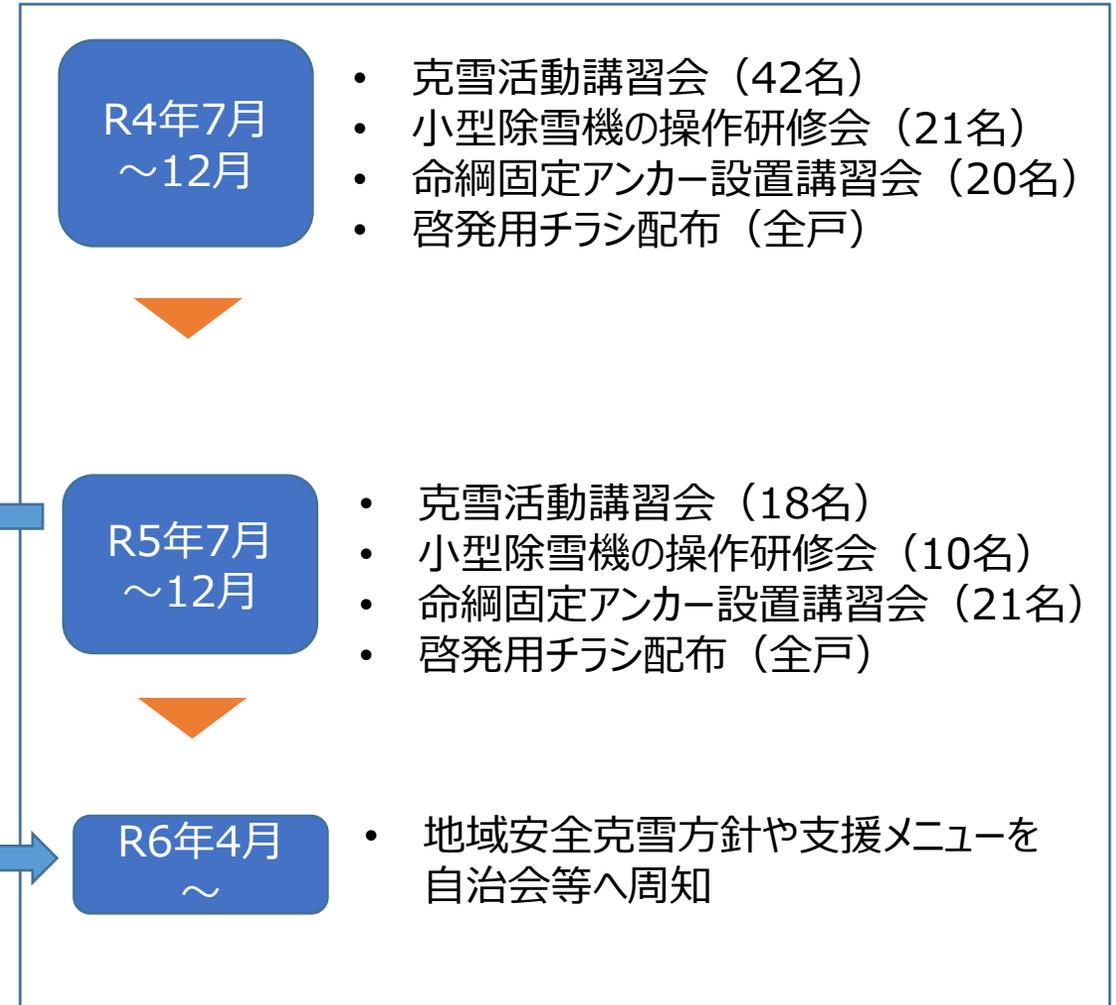
	Aグループ	Bグループ	Cグループ
安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ●地域での声掛け ●日常的に危険個所を巡っていただくが大変 	<ul style="list-style-type: none"> ●通学路やゴミ捨て場周辺など、除雪場所に優先順位をつける ●高校生や地域の若者が除雪困難世帯を支援する仕組みづくり ●作業支援者に何らかの報酬を与える仕組みづくり ●雪捨て場に関するルールづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ●女性でもだれでも機械を操作できる ●排雪する場所が近くにない
除排雪に関する支援・体制	<ul style="list-style-type: none"> ●ボランティアに頼るまでに、身近な家族や地域で助け合うために自分たちでできることをやる。そのために子どもの頃から教えておく ●有償ボランティア 		<ul style="list-style-type: none"> ●地域で除排雪をする仕組みができていく ●地域のみならず助け合いの意識が高い！ ●一冬が終わった後に、各集落・地域が互いの状況（良かった点や問題点など）を共有する場がある

9

◎ 地域安全克雪方針



◎ 死傷事故の防止に向けた各種取組



- ◆ 克雪方針はシンプルなものでもよい。この機会に克雪住宅数や自治会・団体の活動実態など除排雪に関する地域の現状把握をやるべき。
- ◆ 10年後には高齢化率が約45%となる村上市において、これからの民地や地域の除雪を見つめ直す良い機会となった。
- ◆ 人手不足が課題である。積雪量や気温を感知することで融雪が自動で行われる装置などデジタル化による先端技術の活用事例、隣接集落との連携による活動事例があったら教えてほしい。

ご清聴ありがとうございました



あふれる笑顔のまち村上
新潟県村上市



新潟大学穴戸ゼミ×村上岩船定住自立圏★政策プレゼンテーション ～雪かきによるコミュニティづくり～